

(仮称) 花巻 P A スマートインターチェンジの 新規事業化が決定されました

9 月 27 日に国土交通省はスマートインターチェンジについて、新たに全国 10 箇所で新設の新規事業化を行う旨を公表しましたが、その 10 箇所の中に花巻 P A におけるスマートインターチェンジ整備が選ばれました。

(仮称) 花巻 P A スマートインターチェンジの全体事業費は約 20 億円を見込んでおり、そのうち市の負担により整備する料金所からのアクセス道路などの事業費は約 2 億円ですが、スマートインターチェンジの事業化に伴い来年度以降整備されるアクセス道路と市道を含めて国からの補助が期待されているところであり、東日本高速道路株式会社の利用予測に鑑みても、費用対効果が極めて高いスマートインターチェンジになると考えております。

引き続き、国土交通省、岩手県、東日本高速道路株式会社のご指導とご協力をいただきながら、令和 5 年度中の供用開始を目標にスピード感をもって取り組んで参ります。

(仮称) 花巻 P A スマートインターチェンジに期待される整備効果

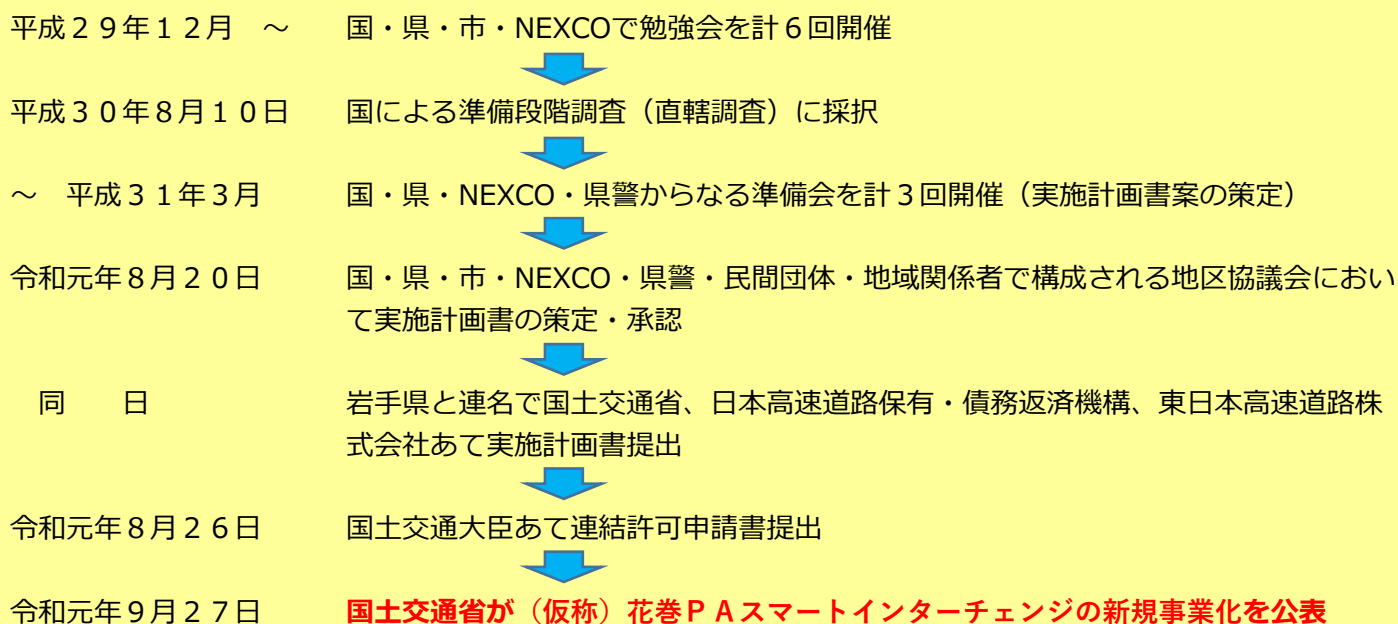
○中部地区の基幹病院である岩手県立中部病院や 9 月 21 日に開設した矢巾町の岩手医科大学附属病院へのアクセス向上につながり「命を守るインターチェンジ」として期待されます。

○花南地区、西南地区、矢沢地区の住民のほか花巻機械金属工業団地を含む周辺の工業団地や立地企業の利便性が格段に向上することにより、さらなる企業の誘致と製造品輸送の効率化が期待されます。さらに北上市北部地区の住民および産業活動の利便性の向上も期待されます。

○富士大学や現在整備中の道の駅「はなまき西南」とのアクセス性が向上し、地域の活性化も期待されます。

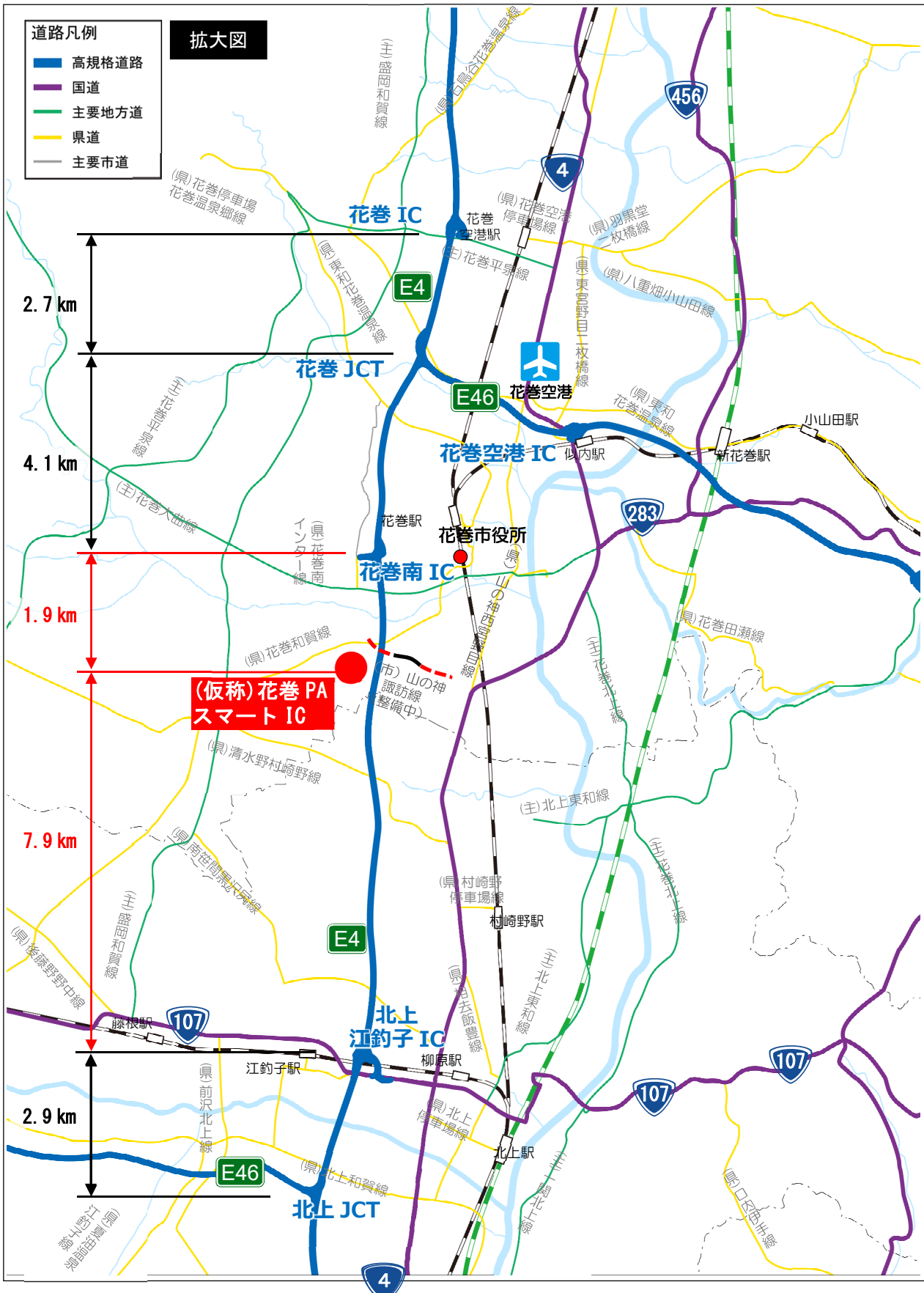
○このスマートインターチェンジは、周辺地形が平坦であり、さらに県道花巻和賀線がすぐ北側で立体交差しているなど整備に大変有利な条件下であり、また、かねてより市が都市計画道路として整備を進めている市道山の神諏訪線を利用することにより、国道 4 号へのアクセスも飛躍的に向上します。

《これまでの経緯》



《參考資料》

スマート IC 設置予定箇所図

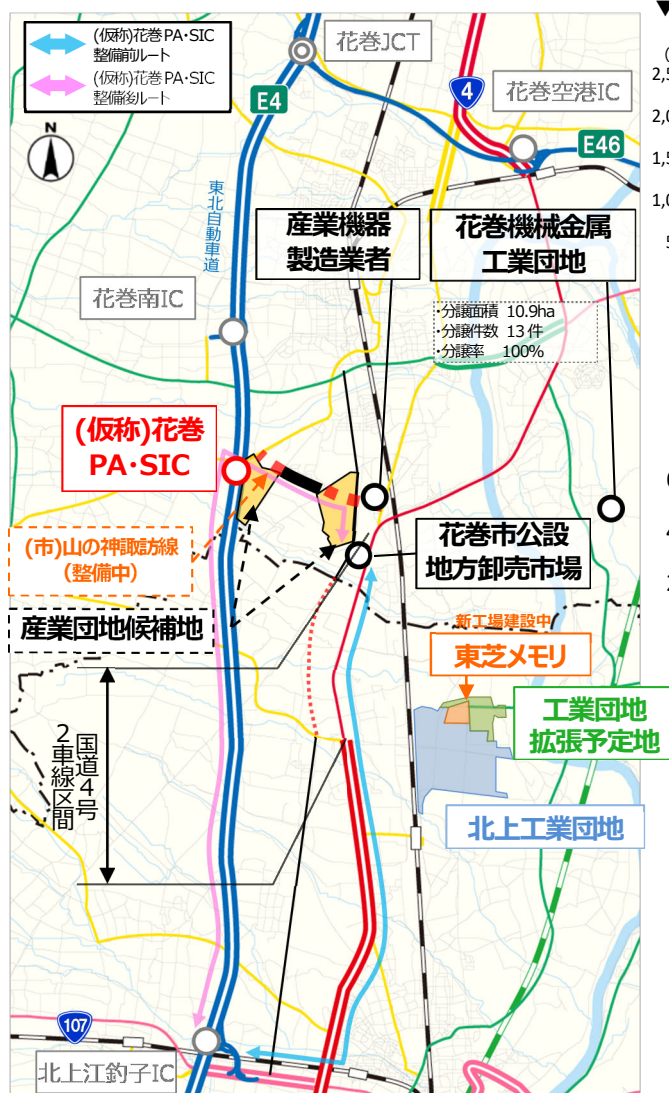


1. スマート IC の設置により期待される整備効果

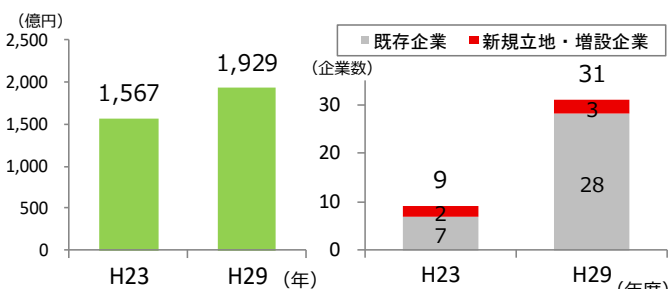
1) 地域産業の支援

- ・花巻市は、高速 IC、JCT、新幹線駅、空港が近接する交通結節点であり、製造品出荷額や企業進出が増加している。製造品の搬送においては、主に仙台・関東方面間での高速道路利用が多い。
- ・また、花巻市及び近隣の市町村を中心に岩手県中央部における継続的かつ安定的な食料供給の拠点としての役割を担う花巻市公設地方卸売市場が存在する。入出荷においては、生鮮品を扱っているため、主に高速を利用している。
- ・企業活動の活発化が進む中、当該地域では、近接 IC のアクセスに時間を要している。
- ・近隣産業機器製造業者から北上江釣子 IC まで約 9 分短縮、花巻機械金属工業団地から北上江釣子 IC まで約 6 分短縮など、(仮称)花巻 PA スマート IC の整備により運輸時間の短縮が図られ製造品入出荷時における輸送コストの削減や入出荷量増加が期待される。

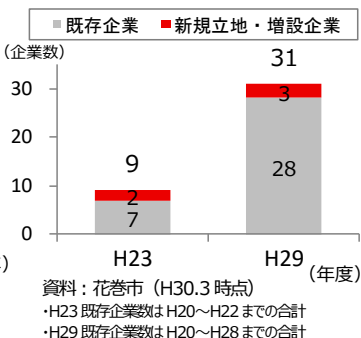
▼整備地区周辺の主な産業団地・企業からの想定ルート



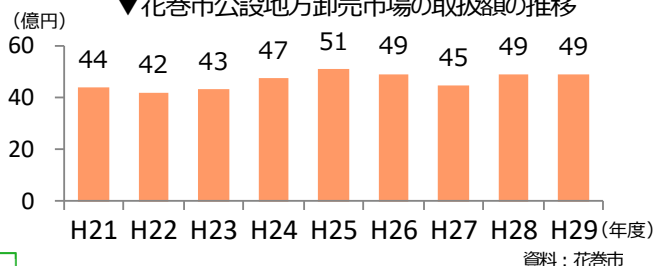
▼花巻市の製造品出荷額の推移



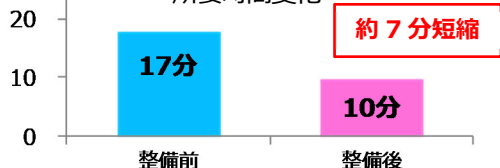
▼花巻市誘致企業等における新規・増設企業数の推移 (累積)



▼花巻市公設地方卸売市場の取扱額の推移



▼花巻公設卸売市場～北上江釣子 IC の所要時間変化



資料：平成 27 年度全国道路・住居交通静態調査 (非制限付速度、上下平均)

【北上工業団地 製造業者の声】

<企業①>
■主要生産品目：機械部品の正面処理、■道路利用状況：ほぼ毎日
■利用に向けた意向
・機械加工部品を北上工業団地から滝沢市や八戸市へ花巻空港 IC を利用して輸送しています。スマート IC の整備により、高速道路へのアクセス性が向上し、従業員の業務効率につながります。

<企業②>
■主要生産品目：半導体等製品の出荷、■道路利用状況：ほぼ毎日
・大手半導体製造業者の製品を北上工業団地から関東方面へ北上江釣子 IC を利用して輸送しているところですが国道 4 号は渋滞が激しいため西側の市道を行っていますがこちらも混雑している状況です。スマート IC の整備によりこれらの混雑区間を回避でき、輸送時間の短縮が期待できます。

資料：H30.11 ヒアリング結果

【産業機器製造業者の声】

- ・国内除雪機の約 7 割を生産しています。
- ・製品は、約 7～8 割を北上市以南 (北上市、宮城県、静岡県等)へ、主に北上江釣子 IC を利用して輸送しています。
- ・アクセス道路も含めたスマートインターチェンジの整備により、輸送コスト削減や、運転手の拘束時間削減が期待できます。

資料：H30.11 ヒアリング結果



【花巻市公設地方卸売市場の声】

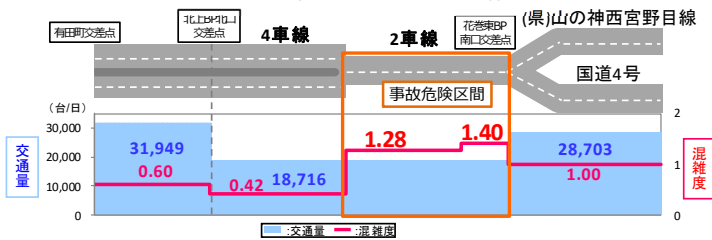
- <水産品>
・生鮮品であるため、輸送は主に高速を利用しています。
・SIC が整備されれば、出荷時間を遅らせることが可能になります。ピッキング(積込積卸)時間に余裕ができるので、ミスを減らせ、1 台当たりの出荷量を増やすことができます。

資料：H30.2 ヒアリング結果

2) ICアクセスの向上

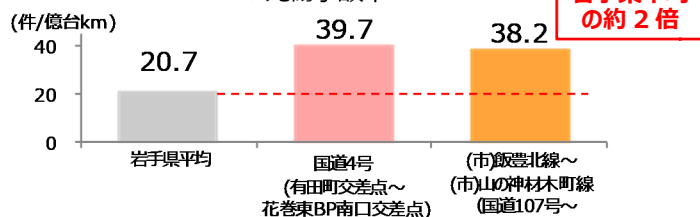
- ・主要路線である国道4号は約2万台/日の交通量があり、混雑度最大1.4と混雑が激しい路線である。死傷事故率では、国道4号及び並行する西側市道が県平均の約2倍となっており、国道4号では事故危険区間の指定がある。花巻消防の救急搬送は、県立中部病院への搬送で花巻空港ICを利用しているが病院到着まで一般道利用区間が長く、道路状況が不明確であるため、時間短縮が課題となっている。
- ・(仮称)花巻PAスマートICの設置により県立中部病院の20分カバー圏域が拡大するほか、県立中部病院から矢巾町の岩手県高次救命救急センターまで約4分短縮するなど円滑な救急医療活動の実施が期待できる。また、ICアクセス10分圏人口が約14,800人増加し、流動が多い花巻市以北地域に対して、市民の通勤や買い物、通院等の利便性の向上が期待される。
- ・さらに、製造業者や卸売市場、病院、大学などからスマートICへの移動で死傷事故率が高い区間を回避することが可能となる。

▼国道4号の車線数・交通量・混雑度



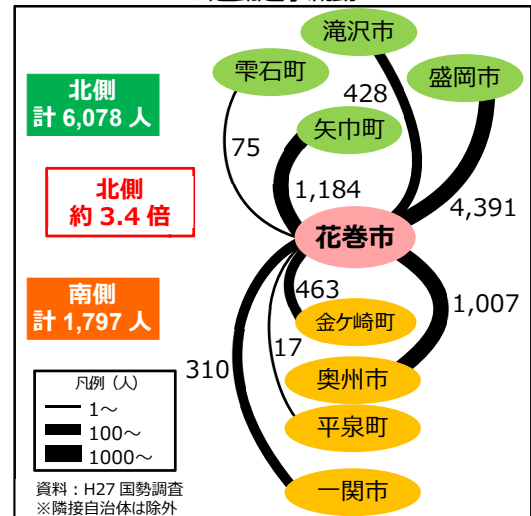
資料：平成27年度 全国道路・街路交通情勢調査

▼死傷事故率



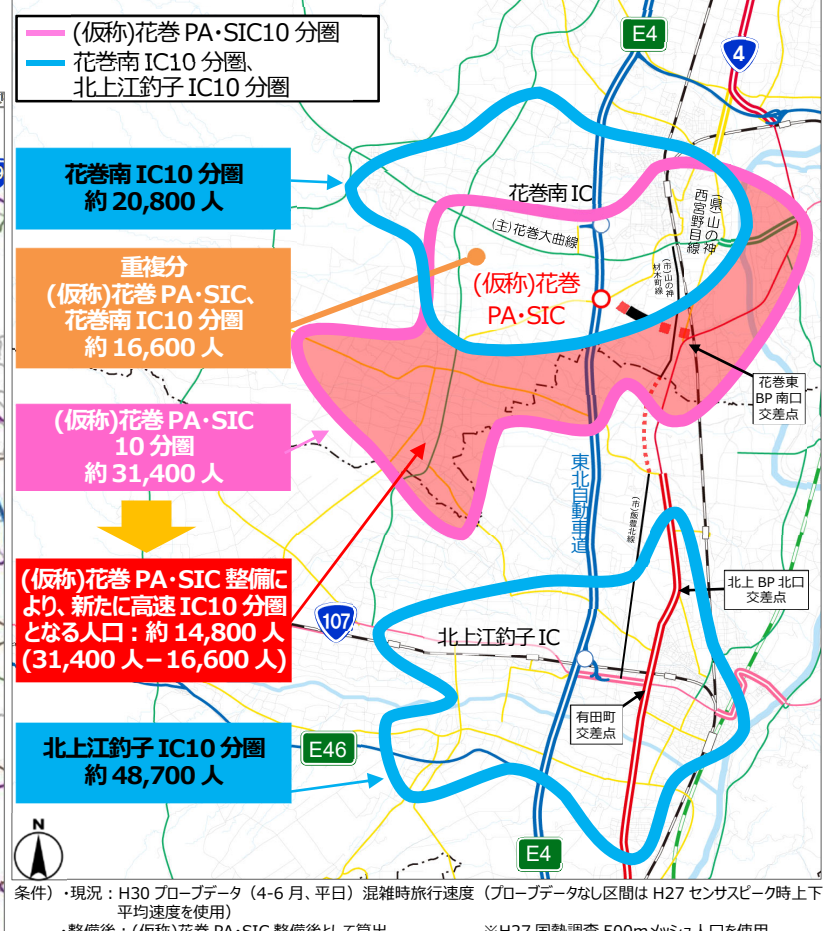
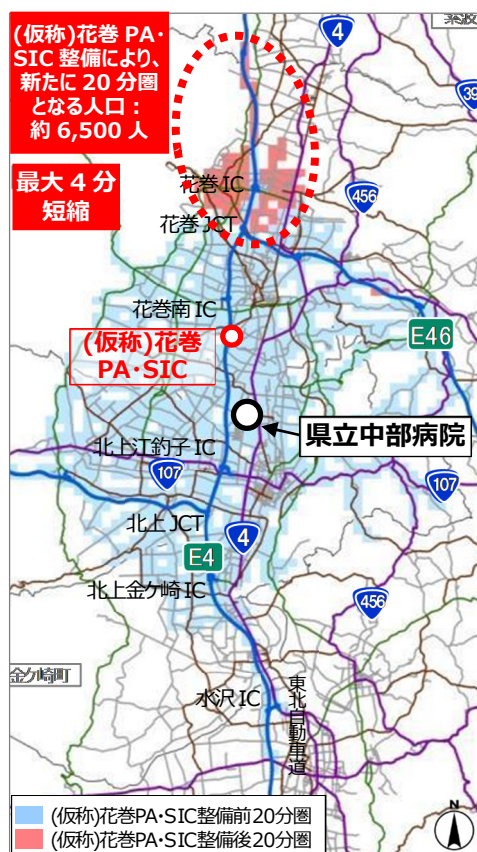
資料：ITARDA データ(H25-H28)、市道は警察事故データ

▼通勤通学流動



▼高速IC10分圏図

▼県立中部病院 20分圏域図

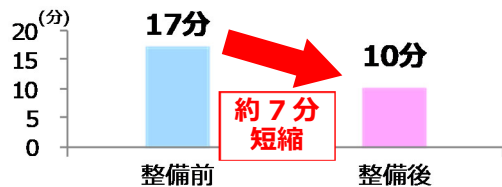


条件：・現況：H30プローブデータ（4-6月、平日）混雑時旅行速度（プローブデータなし区間はH27センサスピーク時上下平均速度を使用）
・整備後：(仮称)花巻PA・SIC整備後として算出 ※H27国勢調査500mメッシュ人口を使用

3) 地域環境の向上

- ・富士大学では地域貢献の一環としてスポーツ振興が盛んであるが、関東方面の試合開催時には混雑区間を通ることから、IC アクセスに時間を要している。
- ・(仮称)花巻 PA スマート IC の整備により移動時間が短縮され、選手の練習時間確保などが期待される。
- ・また、花巻市では道の駅「はなまき西南」の整備が進んでいる。(仮称)花巻 PA スマート IC の整備により、道の駅へのアクセス性が向上され、道路利用者のための休憩機能や、地域の情報発信機能の利便性が向上し、地域活性化が期待される。

▼北上江釣子 IC～富士大学間の所要時間の変化



資料：平成 27 年度全国道路・街路交通情勢調査（非混雑時旅行速度、上下平均）

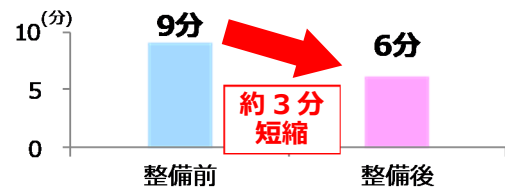
【富士大学スポーツセンター概要】

- ・スポーツセンターは、総面積 14,466 m²。天井の高さ約 20m のスケールを誇る屋内総合体育館。
- ・屋内 300m トラック・多目的運動場が一体となっており、**大学施設としては日本最大級の大さき**を誇る。
- ・屋内 300m 運動場のトラックは、一部ゴム（タータン）床暖房システムを取り入れるなど、1 年を通して快適に運動することが可能。

資料：富士大学ホームページ



▼花巻南 IC～道の駅「はなまき西南」間の所要時間の変化

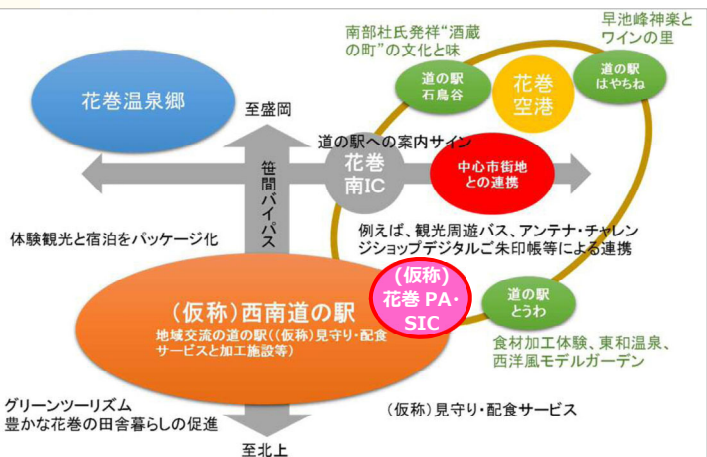


資料：平成 27 年度全国道路・街路交通情勢調査（非混雑時旅行速度、上下平均）

▼道の駅・大学から IC 間の経路

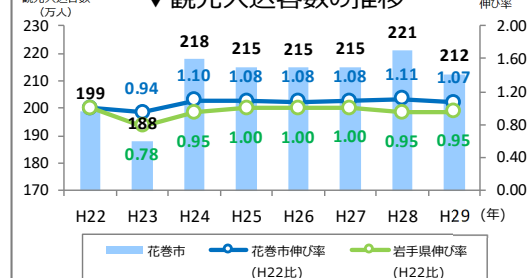


▼道の駅と(仮称)花巻 PA スマート IC の関係



資料：花巻市(仮称)西南道の駅基本構想(第 1 回整備検討委員会資料)

▼観光入込客数の推移



資料：岩手県観光統計概要

2. 周辺道路整備計画図（高規格、花巻市周辺一般道）

- ・（仮称）花巻 PA スマート IC 周辺では、花巻市が（市）山の神諏訪線、北上市が（市）飯豊北線を整備中である。

